

第4次多摩市生涯学習推進計画

【骨子案】

令和3年度～令和12年度
多摩市

市長あいさつ文挿入予定

目 次

第1章 策定にあたって	1
第1節 現代社会における生涯学習の意義	1
第2節 第3次計画の成果と今後の課題	2
第3節 計画の位置づけ	4
第4節 計画の期間	5
第5節 計画の全体像	6
第2章 生涯学習をめぐる現状と課題	7
第1節 近年の社会状況と多摩市の状況	7
第2節 生涯学習に関する市民意識について	11
第3節 多摩市の生涯学習をめぐる課題まとめ	13
第3章 計画の基本的な考え方	16
第1節 計画の基本理念	16
第2節 計画の目指す方向	17
第3節 施策の体系	18
第4節 成果指標	19
第5節 計画の進行管理	20
第4章 施策の展開	21
目指す方向1 誰もが一歩をふみだせるまち	21
目指す方向2 人と人がつながり認め合うまち	21
目指す方向3 いつでもどこでも自分を高められるまち	21
目指す方向4 学びあいと協働でかがやくまち	21
資料	22
1 計画策定経過について	22
2 第四次多摩市生涯学習推進計画策定委員会設置要綱	22
3 第四次多摩市生涯学習推進計画策定委員会名簿	22
4 第四次多摩市生涯学習推進計画策定委員会開催経過	22
5 多摩市生涯学習推進本部設置要綱	22
6 多摩市生涯学習推進本部委員名簿	22
7 多摩市生涯学習推進本部会議開催経過	22
8 アンケート調査結果	22
9 ワークショップ結果	22
10 用語解説	22

第1章 策定にあたって

第1節 現代社会における生涯学習の意義

令和の時代を迎えた今、私たちを取り巻く社会は、大きく動いています。その中で、一人ひとりが充実した人生を送り、暮らしやすい地域コミュニティを創る上で、「学び」は欠くことのできない大切な営みです。

「生涯学習」とは、変化する社会の中で、学び続けたり、また、学びの幅を広げたりすることで、一人ひとりの人生をより豊かにしようという考え方です。そこでいう学習（学び）には、知識やスキルを身につけることのみならず、他者と出会い、他者との関わり合いの中でこれまで知らなかった価値を発見したり、他者との協働の中で新しい価値を創出したりすることも含まれます。またそれは、他者と関わり合い、他者とともに活動することをとおして、自らが住む地域コミュニティをより良くすることにもつながるものです。

学ぶことの前提には「課題」があります。すなわち、自分が困っていることや悩んでいることを解決したり、自分の夢や興味関心を実現したりするためには、自らの努力とともに、仲間とそうした課題を共有し、ともに実践したりすることが大切です。そして、社会が直面している課題を自分のものとしてとらえ、解決に向かう学びをすることが重要となります。

ちなみに、こうした学びは、一人ひとりの生活の中での営みでありながら、社会を運営する機能（ガバナンス機能）を内包する場合も少なくありません。それゆえ、行政によるサポートや条件整備が必要な場合があり、また、行政や各団体間の協働が求められる場合もあります。社会性と公共性を帯びた市民の多様な学習活動に対してサポートすることが、行政が生涯学習施策を実施する意義といえます。

生涯学習推進計画は、市民一人ひとりの自由な学びを尊重しつつ、学びが内包するガバナンス機能に着目して、それらを緩やかにまとめ、未来に向けた地域コミュニティの方向性を示すものです。

第2節 第3次計画の成果と今後の課題

(1) 第3次計画の成果

多摩市では、平成23年に“『笑顔をつむぐ生涯学習』～「ふれあい」から始まる地域づくり～”を基本理念とする「第3次多摩市生涯学習推進計画」（以下「第3次計画」という。）を策定し、一人ひとりが生涯学習をとおして、笑顔を交わしながら仲間をつくり元気に活動することによって、豊かな文化と信頼の絆にあふれた「まち」を創ることを目指してきました。

「第3次計画」では、「1 人がふれあい、信頼の絆が広がるまち」「2 人と人がつながり、助け合い、支え合うまち」「3 人や団体が相互にかかわりあいながら、協力して地域づくりを進めるまち」の3つの目指す方向を掲げ、生涯学習施策を推進してきました。

【目指す方向1】人がふれあい、信頼の絆が広がるまち

主な推進項目は、施設の有効活用や市民同士のつながりを作る機会や場の提供、世代ごとの社会参加支援への取り組みといった事項です。各個別施策の状況については、いずれも大きな課題はなく、順調に進みました。成果指標については、以下の通りで目標を達成しています。

成果指標	平成22年度	令和元年度
地域で困った時に助け合える関係を築きたいと思う市民の割合	72.0%	83.9% (目標値 80%)

【目指す方向2】人と人がつながり、助け合い、支え合うまち

主な推進項目は、個人や団体の交流、多文化・多世代の交流、地域の支えあいなどを充実するようなくみづくりを目指した取り組みといった事項です。各個別施策の状況については、継続的な取り組みがされている状況です。成果指標については、向上していますが、例えば、地域課題を解決していくことを目的に検討した施策について、実施に至っていないなど課題が残ります。また、実績値と目標値に大きな差異があり、取り組みについての見直し、改善が必要です。

成果指標	平成22年度	令和元年度
多様な担い手が協働し、人々がつながりを持って互いに支え合えるまちだと思える市民の割合	13.0%	15.0% (目標値 20%)

【目指す方向3】人や団体が相互に関わりあいながら、協力して地域づくりを進めるまち

主な推進項目は、市民協働・市民参画の推進、学校教育・家庭教育との連携およびまちづくりへの学びの還元を目指した取り組みといった事項です。各個別施策の状況については、おおむね順調に進んでいますが、一部の事業では課題がみられます。成果指標については、悪化しており、目標値と大きな差異がある状況です。個別施策については、おおむね順調に進んでいますが、指標に反映されないことから、取り組み及び指標設定の方法について、再度検討が必要です。

成果指標	平成 22 年度	令和元年度
地域活動を通して、自分の力を発見・発揮できる機会があるまちだと思う市民の割合	17.5%	13.0% (目標値 40%)

(2) 第3次計画の課題

施設の有効活用や市民同士のつながりを作る機会づくり、場の提供、世代ごとの社会参加支援などについては、概ね順調に取り組みが進みました。

一方で、個人や団体の交流、多文化・多世代の交流、地域の支えあいなどの面では、計画策定当初に比べて進捗はみられましたが、目標としていた水準には到達できませんでした。

また、市民協働・市民参画の推進、学校教育・家庭教育との連携およびまちづくりへの学びの還元に関する取り組みについては、各個別施策としてはおおむね順調に進みましたが、成果を図る指標との間にギャップが見られました。

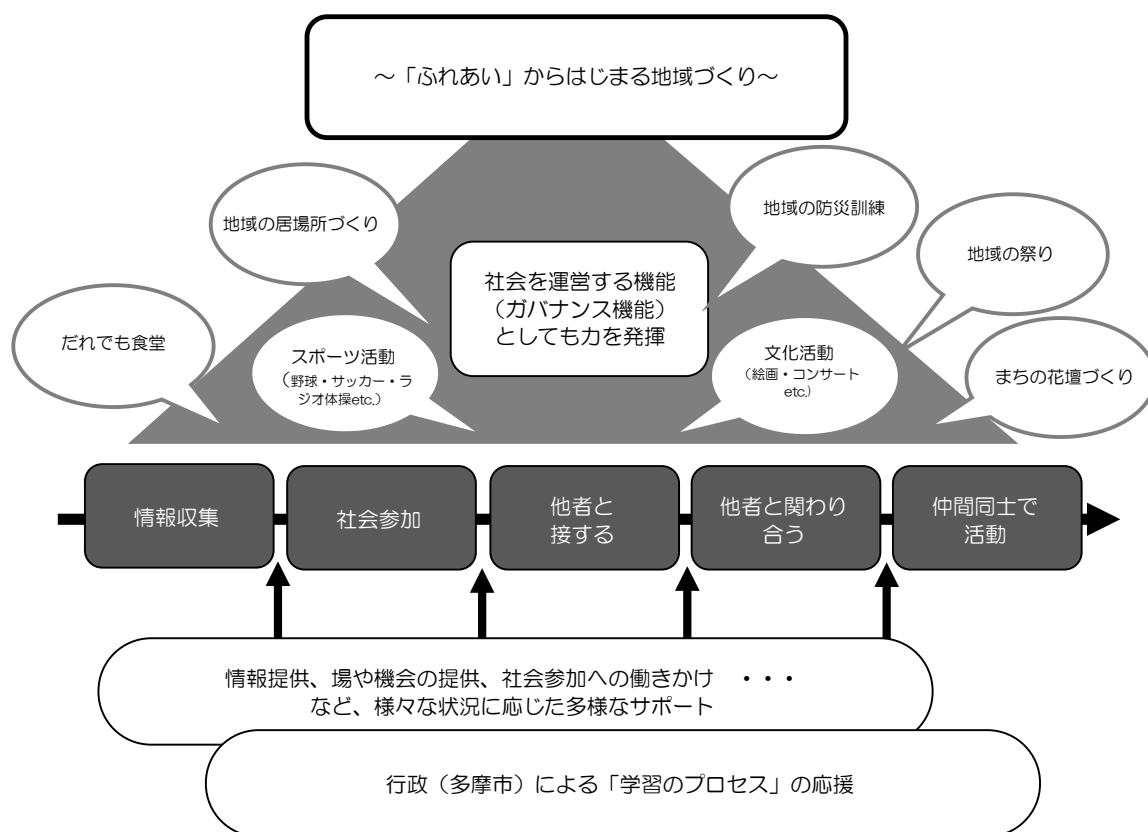
第3節 計画の位置づけ

生涯学習推進計画は、市民一人ひとりの自由な学びを尊重しつつ、学びが内包するガバナンス機能に着目して、それらを緩やかにまとめ、未来に向けた地域コミュニティの方向性を示すものです。

また、生涯学習推進施策は、市民が生涯学習を行うにあたって、条件整備を通じ、「学習のプロセス」を応援するものです。具体的には、情報収集から社会参加、他者と接し、他者と関わり合い、仲間同士で活動するといった、様々な段階の中で、行政や市民一人ひとりが、困っている人に対して、自ら障壁を取り除こうとする人を増やすことを目指します。

「多摩市生涯学習推進計画」は、各部局において実施される意識啓発事業や市民参画事業等といった、学びの場と学びの成果を発揮できる場を提供する各種施策について、生涯学習の視点から体系化し、生涯学習の推進、ひいては各種施策の目標達成を支援するための計画として策定します。

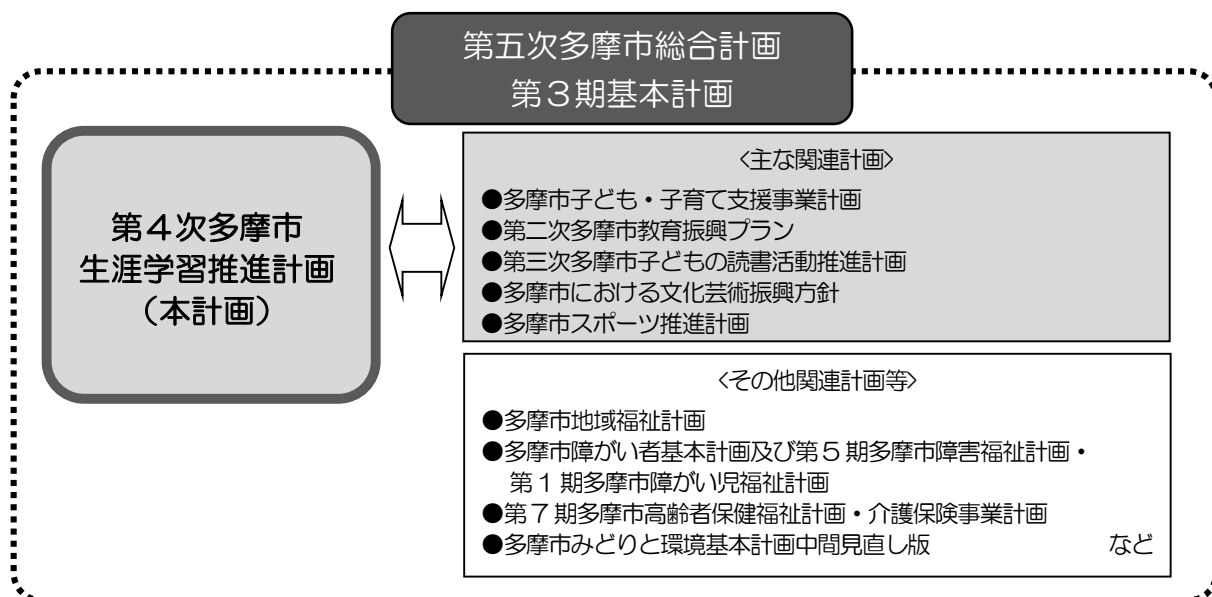
■生涯学習推進のイメージ



本計画は、市の最上位計画である「第五次多摩市総合計画 第3期基本計画」で示される、市の目指すまちの姿を実現するために、生涯学習施策の推進に向けた基本的な考え方と方向性を定める計画です。

計画の推進にあたっては、「第五次多摩市総合計画 第3期基本計画」を基軸とし、文化、スポーツ、読書等、様々な分野の個別計画との整合・連携を図ります。

■関連計画との位置づけ



第4節 計画の期間

本計画の期間は、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10か年です。なお、総合計画の改定時期等を考慮しつつ、5年をめぐりに必要に応じて見直しを行います。

■計画の期間【図3】

令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
第4次多摩市生涯学習推進計画（本計画）									
				見直し	改訂版				

第5節 計画の全体像

計画の基本理念【●ページ】

本計画では下記を基本理念に掲げ、市民の学びの支援に向けた取り組みを推進します。

学びあいがつむぐ健幸なまち
～「ふれあい」からはじまる地域づくり～

計画の目指す方向【●ページ】

基本理念の実現に向けて、次の4つを目指す方向として定め、施策を展開します。

目指す方向1 誰もが一步をふみだせるまち

誰もが、人とふれあうことや地域とかかわりを持とうとすることができる場や機会をつくる。

※社会参加支援や居場所づくりのイメージ

目指す方向2 人と人がつながり認め合うまち

人と人とのつながりを促し、相互に認め合い、助け合える環境をつくる。

※ボランティアや共生社会をつくるイメージ

目指す方向3 いつでもどこでも自分を高められるまち

多様化する学びへのニーズに対応し、生活環境の変化に柔軟に応じた学びの場や機会をつくる。

※個人的課題に関する個人学習のイメージ

目指す方向4 学びあいと協働でかがやくまち

学びあいが地域へと広がり、市民や行政の協働によって、誰もが輝けるまちをつくる。

※持続可能で元気な地域をつくるイメージ

第2章 生涯学習をめぐる現状と課題

第1節 近年の社会状況と多摩市の状況

(1) グローバル化の進行

グローバル化の進行により、人やモノの移動がさらに活発になるとともに、地域や国家の諸活動が相互依存的になっています。また、経済のグローバル化に伴い、観光や就労を目的とする外国籍人材の流入と交流が急速に拡大しています。

他方、ICTの発達やAIの普及等により、生活上の利便性が著しく向上しており、また情報発信やコミュニケーションのスタイルも、電子空間を活用したバーチャルなものを中心に二つあります。こうしたコミュニケーション手段の発展に対応できるスキルの習得は、一層重要性を増しています。

多摩市においても、近年外国籍住民人口は増加傾向にあります。多様性を認め、尊重し合う社会の実現に向けた学びや、誰もが学習に参加できる環境・機会づくりが求められます。

(2) 人口減少社会の到来と少子化・高齢化の進行

近年、18歳人口を含め人口が減少する少子高齢化社会を迎えています。少子高齢化が一段と進む中、将来の健康や生活に不安を持つ人も増加しています。他方、「人生100年時代」を控え、健康づくりをはじめとするこれまでの人生設計の考え方について、転換が迫られています。

多摩市においても、0歳児人口は減少傾向にあり、合計特殊出生率も依然として低い状況にあります。年少人口はほぼ横ばいで推移しています。65歳以上人口では、高齢化率が28.1%と、20年前と比べて18ポイント増加するなど、都内26市でも類をみないスピードで高齢化が進行しています。

また、「団塊の世代」が後期高齢者（75歳以上）に達する令和7（2025）年には、高齢化率は30%を超え、令和12（2030）年には、多摩市民の3人に1人が高齢者になる見込みです。

一方で、介護予防やフレイル（虚弱）予防をはじめとした健康づくりや居場所づくりが盛んにおこなわれる中、要介護認定率は都内26市で最も低くなっており、こうした取り組みのさらなる推進が求められています。

(3) 若者世代・子育て世代の動向

ライフスタイルや家族形態、働き方の多様化などを受けて、少子化が進行しています。そうした中、若者世代においては、貧困問題、ひきこもり、いじめなど、子どもの成育環境として様々な問題が顕在化しています。

一方で、コミュニティ・スクールなど、多様な学びの場が広がりつつあります。また、ライフスタイル・家族形態の多様化等を背景に、子育て環境の充実を求める人が多くなっています。

多摩市では、子育て世代の転入が多くなっており、今後も、子どもや子育て世代にとって魅力あるまちづくりに向けた市民の多様な取り組みを応援していくことが必要です。また、世代間で交流し、相互に学び合う場や機会づくりが求められています。

（４）地域コミュニティの助け合い・支え合いと地域の状況

社会の成熟化に伴い、市民の価値観が多様化する中、行政だけでは支えきれないニーズや地域課題も多様化・複雑化しています。

また、人と人とのつながりの希薄化や働き方の多様化などに伴い、地域コミュニティの担い手・支え手不足の一層の深刻化が見込まれる一方、リタイア世代の増加やワークライフバランスの進展により、地域活動に参画し、活躍する人の増加が期待できます。

地域においては、子育て、介護、障害などをきっかけに孤立するなど、様々な不安や悩みを抱えるケースが認められます。また、都市化の進展等に伴い、人間関係が希薄になり、社会から孤立する人たちが増えている一方、世代を問わず、ボランティア活動に関心を持つ人が増えています。

多摩市においては、昭和46（1971）年の多摩ニュータウン第一次入居以来、様々な地域から集った人々が新たにコミュニティを築いてきた一方で、地域で活動する団体やNPOなどのテーマ・コミュニティ*も高齢化が進んでいます。

第3期基本計画では、これまでのコミュニティエリア等をベースとした「（仮称）地域委員会構想」の検討等をふまえ、地域担当職員の設置など、多摩市の実情に合った地域自治のしくみづくりへの取り組みが進められています。

そうした中、多摩市社会福祉協議会により地域福祉コーディネーターが配置され、コミュニティ単位で地域福祉推進委員会を運営するなど、地域共生社会の実現に向けた取り組みが進められています。

今後も、テーマ・コミュニティやボランティア団体など、地域の多様な主体が活動を継続・発展させていけるようサポートしていくことが必要です。

（５）安心・安全の状況

近年、自然災害の大規模化が進んでおり、防災知識の普及が急務となっています。そうした中、災害に対する危機意識と防災への関心を持つ人が増えています。防犯面においては、高齢者を狙った特殊詐欺など、犯罪の巧妙化が進んでいます。

多摩市においても、防災知識の普及や複数の自主防災組織による合同訓練等、地域ぐるみの防災対策を実施しています。しかしながら、犯罪件数では平成11（1999）年をピークに年々減少傾向にある一方、特殊詐欺被害件数とその被害額は年々増加しています。

今後も、防災・防犯知識の普及を図るとともに、普段から人と人とのつながりを強めていく取り組みを進めていくことが求められます。

.....
*テーマ・コミュニティ：特定の地域課題の解決に向けて、一定の分野に特化した活動を行うコミュニティ。

（6）共生と持続可能なまちづくりの状況

世界的に、地球温暖化等の影響で異常な気象変動が生じており、大雨、洪水、森林火災など各地で大規模な災害が多発しています。

国連では、気候変動対策や海洋保全など 17 の目標を含むSDGs*を推進しており、その中で、真に持続可能な地球づくりへとつながる、「誰一人取り残さない」といった理念をふまえたイノベーションや取り組みが世界規模で進行しています。

我が国では、平成 30（2018）年6月に、国の第3期目の教育振興基本計画が閣議決定され、その中で、人生 100 年時代を見据えた生涯学習、社会人の学び直しに加え、「障がい者の学習推進」や「持続的発展のための学び」といった具体的目標が掲げられました。

また、一人ひとりの多様性を尊重し、すべての人が互いを認め支え合う「ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）の考え方に基づき、多方面での活動が展開されています。

男女共同参画、多文化共生社会への取り組みなど、多様性を受け入れる下地づくりが進む一方、世界各地で人種・文化・宗教、性差などに基づく摩擦や差別、紛争等が頻発しています。また、共生社会の実現に向けた取り組みが進む中、共生社会実現への障壁となる事象や意識も多く残されているといえます。

多摩市においては、共生と持続可能なまちづくりに向けて、市内全小中学校においてESD*が展開されています。また「障がい者差別解消条例」の制定も検討されています。

そして、昭和 40 年代から 50 年代にかけて集中整備された公共施設の老朽化、更新時期を迎えています。そうした中、多摩市中央公園を中心に、リニューアルしたパルテノン多摩、図書館本館などを有機的につなぐ再整備が進められています。また、諏訪・永山まちづくり計画に基づくニュータウン再生の取り組みなど、この数年内に市内3駅を中心に、まちが大きく変わる転換期を迎えます。

こうしたまちの再整備などを契機に、誰もがいつでも気軽に集い、学び合い、つながり合える場と機会づくりをサポートしていくことが求められます。

.....
 *SDGs：平成 27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、平成 28（2016）年から 2030 年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための 17 のゴールと 169 のターゲット、これらの目標達成に向けた進捗状況を測るインジケータで構成されている。

*ESD：Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳される。環境、貧困、人権、平和、開発の問題など、現代社会の諸課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。

(7) 生涯学習を通じた豊かな地域社会づくりと新たな地域文化の創出

今日、価値意識の多様化やモビリティ*の向上などを背景に、個人が自由な生き方を模索する社会になりつつあります。また、仕事や学校などとは別に、趣味の活動をとおした交流が活発になっています。

文科省は、平成28(2016)年12月、生涯学習(教育、文化、スポーツ)を通じた生きがいづくり、地域とのつながりづくりを推進し、「障害者の自己実現を目指す生涯学習政策」を総合的に展開していく方針を明示しています。また平成30(2018)年6月に閣議決定した、第3期目の教育振興基本計画の中で、人生100年時代を見据えた生涯学習などの具体的目標が掲げられました。さらに、同年の中教審答申において、地域とともにある学校づくりを目指し、コミュニティ・スクール*の設置や地域学校協働活動*を推進する方向性が示されるなど、地域ぐるみで新たな学びや地域のつながりづくりを進めていく機運が高まっています。

東京都では、令和元(2019)年のワールドカップラグビーを通じて、多くの国民がスポーツを通じた多文化共生についての認識を共有した経験をはじめ、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地として、都内全公立学校でオリンピック・パラリンピック教育を推進しています。

一方で、国籍や性別、障害の有無などの属性により、社会参加や社会的活動に障壁が存在している状況もみられます。

多摩市では、平成21(2009)年度から「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズに、多摩市全小・中学校がユネスコスクールに登録し、持続発展教育・ESDに重点的に取り組んでいます。オリンピック・パラリンピックの関連では、都内最長の自転車競技ロードレースコースとなり(11.8km)、またアイスランド共和国のホストタウンとして登録され、継続的な関係づくりに取り組んでいます。そして、新たな市民活動の場としての旧北貝取小学校跡地施設の整備や、映画祭・市民文化祭の開催など、文化的な活動の場や機会づくりが各所で豊かに展開されています。

こうした取り組みを活かしながら、多様な市民が互いに学び合う中で、新たな価値を生み出し、していくことをサポートしていくことが求められます。

.....
*モビリティ：移動性、流動性。

*コミュニティ・スクール：学校運営協議会を設置している学校。

*地域学校協働活動：地域の高齢者、保護者、NPO、民間企業等の幅広い地域住民の参画により、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える活動。

第2節 生涯学習に関する市民意識について

1 市民対象アンケート調査

(1) 調査概要

市民の学習したいこと、阻害要因などをうかがい、本計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的として、令和元年9月に15歳以上の市民を対象とするアンケート調査を実施しました。

対象者	配布数	回収数	回収率
15歳以上の市民	2,000件	441件 (内インターネット回答数：47)	22.1%

(2) 調査結果に対する考察

- 約8割が生涯学習活動に関心を示す中、この1年で4割半ばが生涯学習活動をする一方、ほぼ同数がしておらず、実践には二極化がみられます。
- 生涯学習活動をしなかった（できなかった）理由については、仕事や家事など「多忙」が最も大きな要因で、特に40代、50代で顕著ですが、費用の問題、曜日・時間帯の問題、情報不足など、背景には多様な要因がみられます。
- 知識や経験、学習の成果を、ボランティア活動や地域社会の発展のため、実際に活かしているのは約1割ですが、『活かしたい』が4割半ばと、潜在的な活用意向は高くなっています。特に60歳代以上で学習活動が活発な傾向があり、活動の担い手としての活躍が期待されます。
- 地域や社会で参加してみたい活動については「スポーツ・文化活動」など多岐にわたります。

2 障がい者対象調査

(1) 調査概要

それぞれの障がい内容に応じて感じている課題やニーズをうかがい、生涯学習の理念に基づき対応しうる内容を検討し、本計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的として、令和元年11月に、多摩市地域自立支援協議会の権利擁護専門部会委員及びその関係者を対象とするアンケート調査を実施しました。

対象者	回収数	回収率
多摩市地域自立支援協議会の権利擁護専門部会委員及びその関係者	116件	26.3%

(2) 調査結果に対する考察

- この1年くらいの間には生涯学習活動を経験した割合は、約6割に上ります。
- 困りごとや妨げについては、内容の難しさや自分の障がいの状況への対応、参加しやすい場所、費用の問題などの割合が高く、全体の約7割が何等かの障壁を感じています。
- 市に求めること、配慮してほしいことについては、介助に関わることや情報提供、自分の障がいの状況に対応した講座や資料の提供など、学習参加に向けて様々な支援が求められています。

3 「多摩市の生涯学習を考えるワークショップ」の実施

誰もが自由に学び、成果を生かせる社会の実現のため、市民の視点から、多摩市で誰もが生涯学習活動に取り組むうえでの課題と解決のアイデアを話し合っただくことを目的に、令和元年11月17日に「多摩市の生涯学習を考えるワークショップ」を実施しました。

具体的には、参加者13名が世代別（若者世代20代・30代、壮年世代40代・50代、高齢世代60代・70代）の3つのグループに分かれ、グループごとに市の生活課題と、それらに対して生涯学習を通じてどのように解決できるかのアイデアを話し合っただきました。

■主な意見・提案

■若者世代 20代・30代

- ・生涯学習のモデルや具体的な事例をまとめたものをつくる
- ・若い人も教える側に回る
- ・影響のある主体の発信力を活用した生涯学習の促進

■壮年世代 40代・50代

- ・インターネットを使用したeラーニング
- ・世代に関係なく興味を共有できるテーマづくり
- ・小学校、中学校の活用
- ・外国人にも「教え手」になってもらう
- ・障がい者も教え手となり、パラスポーツの体験・講習、交流機会の実施

■高齢世代 60代・70代

- ・学校支援には高齢者の力活用
- ・地域、学校で、教育についての学習会、講演会、対話の会
- ・民間の空きスペース、空き家を活用
- ・気楽に誰でも立ち寄れる場を増やす工夫
- ・生涯学習支援バンクを積極的に展開
- ・現在活動している団体を繋げていける力量のコーディネーター養成

など、様々な意見・提案を出していただきました。

第3節 多摩市の生涯学習をめぐる課題まとめ

生涯学習を取り巻く社会状況や、これまでの多摩市の取り組み、アンケート調査結果、ワークショップ結果等をふまえ、多摩市の生涯学習をめぐる主な課題を次のとおり整理します。

課題1 生涯学習活動への参加を妨げている原因の解消

市民の生涯学習活動についての関心は高く、学習活動を経験した割合もアンケート回答者の半数近くに上ります。一方で、仕事や家事などによる多忙をはじめ、費用の問題、情報不足など、様々な理由で学習活動をしなかった、あるいはできなかった人も少なくありません。

また、障がい者については、介助者の必要性や、アクセス、適した活動メニューの不足、費用の問題など、様々な理由で、生涯学習活動への参加が難しい状況が生じており、それぞれの障害の状況に合わせた配慮が求められています。

学習活動への参加を妨げている原因を可能な限り取り除き、障がいの有無や性別、年齢、生活状況などの違いにかかわらず、誰もが気軽に学習参加できる状況を整えていくことが重要です。

課題2 個人や地域・社会のニーズに応じた生涯学習メニューの充実

全国的に少子高齢化が一層進行していく中、多摩市においても2030年には3人に1人が高齢者となることを見込まれるなど、人口減少社会への対応が大きな課題となっています。

また、情報化社会の進展や社会経済情勢の変化、地球規模の環境の変化等、生活を取り巻く状況が急速に変化する中、多摩市においても、SDGsの理念および17の目標に共感し、子ども・若者たちが未来に希望を持ち続けることができる持続可能なまちづくりを実現していくため、総合計画に基づき、各分野別の施策を総合的に推進していくことで、SDGsの達成に向け寄与していく方針を定めています。17の目標に関連する課題の多くは、多摩市民をはじめ、今地球に住むすべての人が、真剣に向き合い、改善に向けて連携していくことが求められているものです。ワークショップでは、コンテンツの多様化、楽しく学ぶ「楽習」という考え方も出されています。

今後は、個人レベルでの関心に応じた学習への支援を図るとともに、高齢化やまちづくりなど、地域・社会のニーズに対応していくための知識や技能を積極的に身に付けていくことが求められています。

課題3 誰もがいつでも気軽に集え、学び合える場の充実

多摩市では、コミュニティセンターやパルテノン多摩をはじめとする公共施設において、市民の交流・活動の場の確保を図っていますが、利用しやすい曜日・時間帯に利用できないなど、多様なライフサイクルやライフスタイルをもつ市民の生涯学習ニーズに対応する上で、課題も見られます。

他方、増加する空き家の状況などをふまえ、民間で小規模な学び合い、集いの場を増やしていくことなどがワークショップでも提案されています。

また、市民の多様なキャリアや障害、外国籍、若者といった背景等を活かしながら、一方通行の学び手になるだけでなく、教え手にもなりながら、共に学び合える場を創出することも提案されています。

今後は、民間を含む市内の様々な資源を有効に活用しながら、誰もが気軽に集い、学び合える場を充実させていくことが重要です。

課題4 誰もがつながり、認め合える学びの環境づくり

地域での人と人とのつながりが希薄化する中、高齢者の閉じこもりや若者の引きこもり、いじめ、不登校、子育て不安や老老介護など、様々な場面で地域社会から孤立する状況が顕在化しています。また、市内でも自治会・町会のほか、NPO法人、市民団体等により、様々な地域活動が進められていますが、共働き世代の増加や高齢者の再雇用、定年延長などに伴い、今後一層の活動の担い手不足や負担感の増加が課題となっています。

一方で、リタイア世代の増加やワークライフバランスの進展により、地域活動に参画し、活躍する人の増加が期待できます。また、仕事以外の人と知り合いたいといった希望や、障がい者、外国人、異世代など、様々な人と触れ合うことで、互いを理解し、認め合うきっかけともなることなど、学習参加へのメリットがワークショップでも指摘されています。

また、近年頻発する自然災害などに備え、防災知識の普及や隣近所とのつながりを強めていくことも必要です。

今後は、誰もがつながり、認め合える学びの環境づくりに向けた取り組みを進めていくことが課題です。

課題5 生涯学習活動に関する情報提供・意識啓発

市民による様々な生涯学習活動が展開されていますが、一方でアンケート調査では約半数が生涯学習活動をしていないと回答し、またワークショップでも「生涯学習」という言葉についての理解や認識が不足しているとの意見がみられます。

アンケート調査では、市で実施する生涯学習施策について、認知度が低い状況も確認されています。

情報発信に関する課題に対して、世代などターゲットを定めた発信方法の検討や、直接見たり体験してもらうといった意見が提示されています。

他方、学習することに関しての周囲の理解不足や、学習に対する意識の低さについての指摘もあることから、今後は生涯学習活動に関する情報を適切に発信するとともに、学習参加に向けた意識啓発を進めていくことが重要です。

課題6 学びの成果の発揮

知識や経験、学習の成果を、自分以外のために活かしたいと考える市民は少なくありません。すでにボランティア活動や地域活動の発展のために活かしていたり、今後活かしたいと考える割合もアンケート回答者の約半数近くに上ります。

また、地域や社会で参加してみたい活動として、スポーツ・文化活動をはじめ、地域の子どもや障がい者、高齢者、外国人住民などの支援に関する活動が上位に挙がっています。

今後は、市民の協働による活動等を通じて、地域づくり、まちづくり活動につなげていくなど、市民が学びの成果を十分に発揮し、地域で活躍できる環境の整備が課題です。

課題7 多様性を認め尊重し合う社会の実現に向けた学習の推進

多摩市においても、障害福祉施策や男女共同参画関連施策などを通じて、さまざまな理由で社会から疎外されている人たちを社会の中に受け入れ、尊厳をもって暮らせるまちづくりを目指して取り組んでいます。

しかし、アンケートでも、例えば障がい者の生涯学習参加には、一般市民と比べて様々な障壁があることが確認されています。

国籍、人種、世代、ジェンダー、文化、宗教、身体的特徴など、多様性を認め尊重し合う社会の実現に向けた学習メニューの充実や、誰もが排除されずに学習参加できる学習の環境・機会づくりが課題です。

課題8 多文化・多世代交流・横のつながりの推進

核家族化の進行や地域活動への参加の縮小により、多世代が交流する機会が減少しています。多様な交流が重要であるとの認識は多く共有されている中、生涯学習の講座なども、多世代が交流し、つながるきっかけとなるものが多いとはいえません。ワークショップでも、つながりあう仕組みが多様であるべき、との意見があがっています。

今後は、多文化・多世代の交流や、個人・団体同士の交流がひろがる取り組みが課題です。また、行政についても、縦割りでなく、横のつながりを強めていくことが課題です。

課題9 市民活動のさらなる推進

自治会、町内会、子ども会、老人クラブ、ボランティア団体、NPOをはじめ、本市では多様な活動主体が地域の文化をつくり、支えています。一方、活動メンバーの高齢化や固定化が進み、次代の担い手づくりが大きな課題となっています。

また、年齢、性別、人種、障がいの有無などにより、互いに心の壁をつくり、そこにさまざまなギャップが生じています。さまざまな違いを持つもの同士が交わり、協働し合うことで、新たな価値の発見や、新しい価値を創出していくことが重要です。

第3章 計画の基本的な考え方

第1節 計画の基本理念

本市ではこれまで『「笑顔をつむぐ 生涯学習」～「ふれあい」から始まる地域づくり～』を基本理念に、生涯学習施策を展開してきました。

これからも、市民一人ひとりが、自分に合った学びを楽しみ、また学びを通じて誰かとつながり、学び合うことで、互いを理解し、認め合い、さらにはつながりが広がる中で、誰もが健康で幸せなまちを実現したいと考えます。

また、学びを通じて人と人がふれあい、そのふれあいから生まれるさまざまな発見や取り組みが地域づくりの出発点となり、地域が活性化していくことが期待されます。

そこで、本計画では『学びあいがつむぐ健幸なまち～「ふれあい」からはじまる地域づくり～』を基本理念に掲げ、市民の学びの支援に向けた取り組みを推進します。

学びあいがつむぐ健幸なまち

～「ふれあい」からはじまる地域づくり～

学びあい

一方通行の「教える」、「教わる」の関係だけでなく、相互的な関係性となることを大切に、それを「学びあい」ということばで表現しています。

つむぐ

学び合うことで互いを理解し、認め合い、さらにはつながりが大きく広がっていく姿を「つむぐ」ということばで表現しています。

健幸なまち

世代の多様性があり、市民の誰もが生涯を通じて健康で幸せである都市を「健幸都市」（健幸なまち）として、多摩市全体で目指す目標としています。

第2節 計画の目指す方向

先に掲げた基本理念の実現に向けて、次の4つを目指す方向として定め、施策を展開します。

目指す方向1 誰もが一步をふみだせるまち

誰もが、人とふれあうことや地域とかかわりを持とうとすることができる場や機会をつくる。
※社会参加支援や居場所づくりのイメージ

目指す方向2 人と人がつながり認め合うまち

人と人とのつながりを促し、相互に認め合い、助け合える環境をつくる。
※ボランティアや共生社会をつくるイメージ

目指す方向3 いつでもどこでも自分を高められるまち

多様化する学びへのニーズに対応し、生活環境の変化に柔軟に応じた学びの場や機会をつくる。
※個人的課題に関する個人学習のイメージ

目指す方向4 学びあいと協働でかがやくまち

学びあいが地域へと広がり、市民や行政の協働によって、誰もが輝けるまちをつくる。
※持続可能で元気な地域をつくるイメージ

第3節 施策の体系

基本理念	目指す方向	推進項目	個別施策
学びあいがつむぐ健幸なまち 「ふれあい」「ふれあい」からはじまる地域づくり	目指す方向1 誰もが一步を ふみだせるま ち	①情報提供の充実	
		②相談体制の充実	
		③学習の場や機会づくり	
	目指す方向2 人と人がつ ながり認め合 うまち	④地域活動・ボランティア活動・ NPO活動への支援	
		⑤人材育成への支援	
	目指す方向3 いつでもどこ でも自分を高 められるまち	⑥「健幸」な人生に向けた学びの 充実	
		⑦ライフステージ・ライフサイク ルに応じた学習メニューの充実	
		⑧誰もが学べる環境づくり	
	目指す方向4 学びあいと協 働でかがやく まち	⑨学びを通じた市民協働の推進	
		⑩家庭・学校・地域の連携・協働に よる学びの推進	
		⑪持続可能で元気な地域づくり	
		⑫生涯学習推進体制の充実	

第4節 成果指標

目指す方向1 誰もが一步をふみだせるまち

評価指標	実績値	目標値	備考

目指す方向2 人と人がつながり認め合うまち

評価指標	実績値	目標値	備考

目指す方向3 いつでもどこでも自分を高められるまち

評価指標	実績値	目標値	備考

目指す方向4 学びあいと協働でかがやくまち

評価指標	実績値	目標値	備考

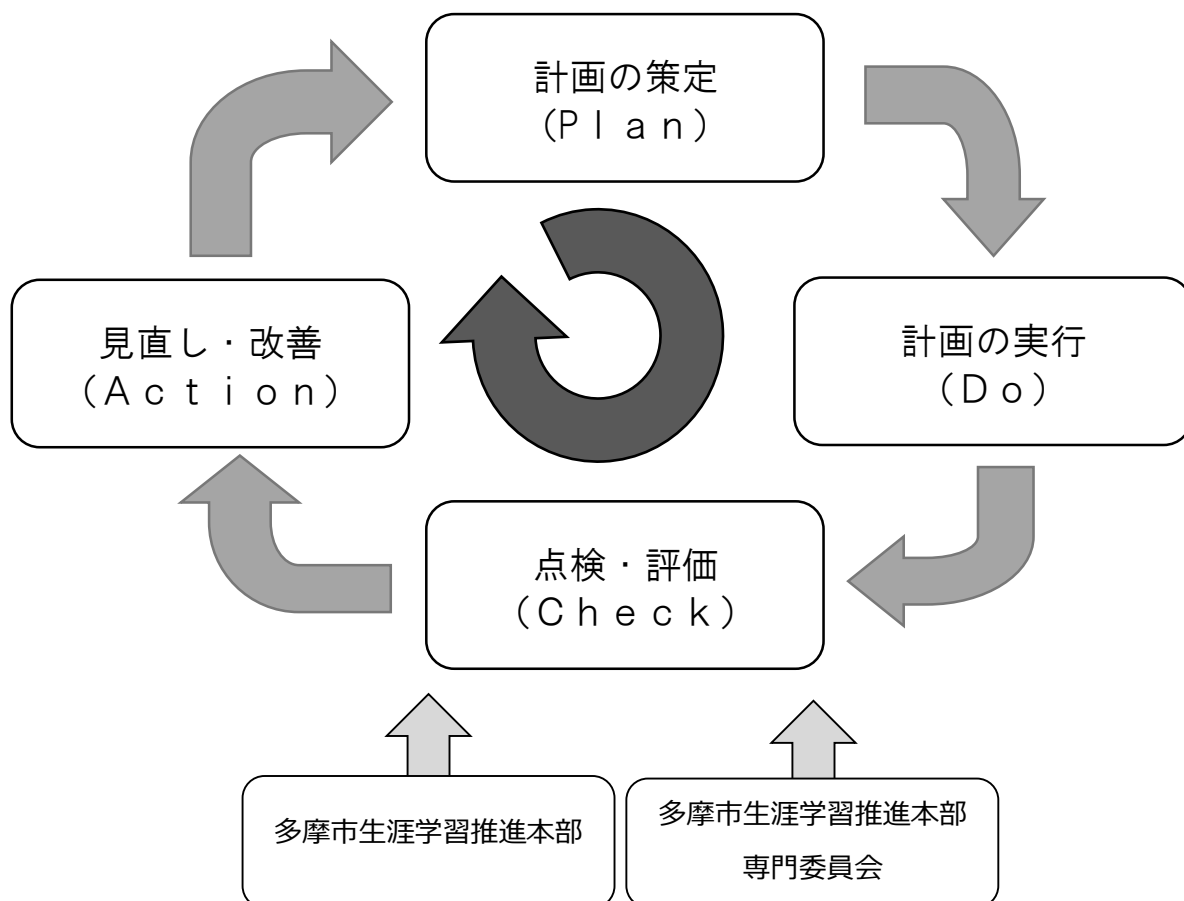
第5節 計画の進行管理

本計画では、目指す方向ごとに成果指標を設定し、計画の達成状況についての把握を行います。

計画の推進にあたっては、各部関係部長で組織され、生涯学習推進計画の策定及び総合的推進に関することを決定する「多摩市生涯学習推進本部」のもと、社会情勢の変化等に的確に対応した施策や事業計画を推進するとともに、計画の進行管理に努めます。また、各関係課長で組織した「多摩市生涯学習推進本部専門委員会」において、本計画に基づく具体的施策の協議及び調整を行います。

そして、市民の参画を得ながら、定期的に進捗状況調査等を実施し、事業の評価を行います。

■PDCA サイクルに基づく計画推進のイメージ



第4章 施策の展開

目指す方向1 誰もが一步をふみだせるまち

目指す方向2 人と人がつながり認め合うまち

目指す方向3 いつでもどこでも自分を高められるまち

目指す方向4 学びあいと協働でかがやくまち

資料

- 1 計画策定経過について
- 2 第四次多摩市生涯学習推進計画策定委員会設置要綱
- 3 第四次多摩市生涯学習推進計画策定委員会名簿
- 4 第四次多摩市生涯学習推進計画策定委員会開催経過
- 5 多摩市生涯学習推進本部設置要綱
- 6 多摩市生涯学習推進本部委員名簿
- 7 多摩市生涯学習推進本部会議開催経過
- 8 アンケート調査結果
- 9 ワークショップ結果
- 10 用語解説